

## 第2章 矢部川流域の景観特性

## 2.1 歴史と文化と伝統産業

古くから矢部川流域では、矢部川の清流とともに様々な文化と伝統が育まれてきました。また、数々の名将、豪勇たちが歴史絵巻を繰り広げてきた場でもありました。豊かな自然とともに、こうした永年の歴史と文化の蓄積が、今に継承される様々な景観の下地を創り出してきました。

### 1) 歴史

#### ①古代の地域形成

矢部川上流にあたる八女地域は、「日本書紀」に早くからその名が記されており、古くは古墳時代の頃から繁栄した地域だとされています。その頃、矢部川上流一帯を治めていたのは、現・矢部村の八女津媛神社の祭神である「八女津媛」であったと伝えられています。また、701年に大宝律令が制定されたのに伴い、条里制に基づく整然とした圃場整備が行われました。

#### ②中世・近世の繁栄と水争い

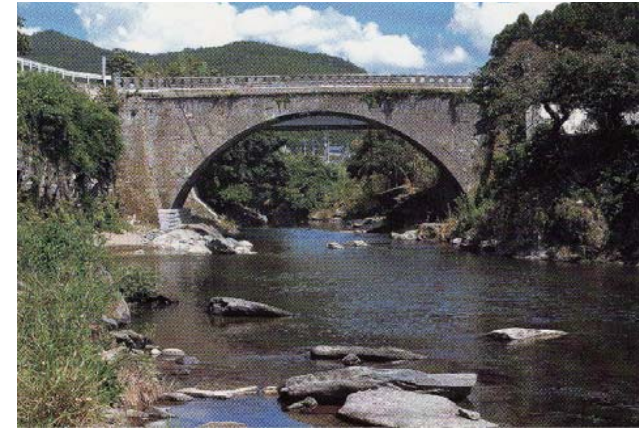
中世の頃には律令制が衰退し、私有地である荘園が発生し、それを管理する黒木氏、星野氏、蒲池氏ら有力豪族が台頭して、その勢力争いとともに戦国時代を迎えます。

関が原の合戦の後に田中吉政が筑後に入封し、柳川に居城して、城づくりやクレークを活かした治水事業に大きな功績を残しました。

その後、田中氏改易の後、筑後は有馬藩（久留米藩）、立花藩（柳川藩）の2藩により治められ、2藩の境界に位置する矢部川では、いくつもの堰、廻水路が設けられ、農業利水を巡る幾多の「水争い」を繰り広げられてきました。こうした歴史とともに、この地域特有の互譲の水利慣行が行われてきました。

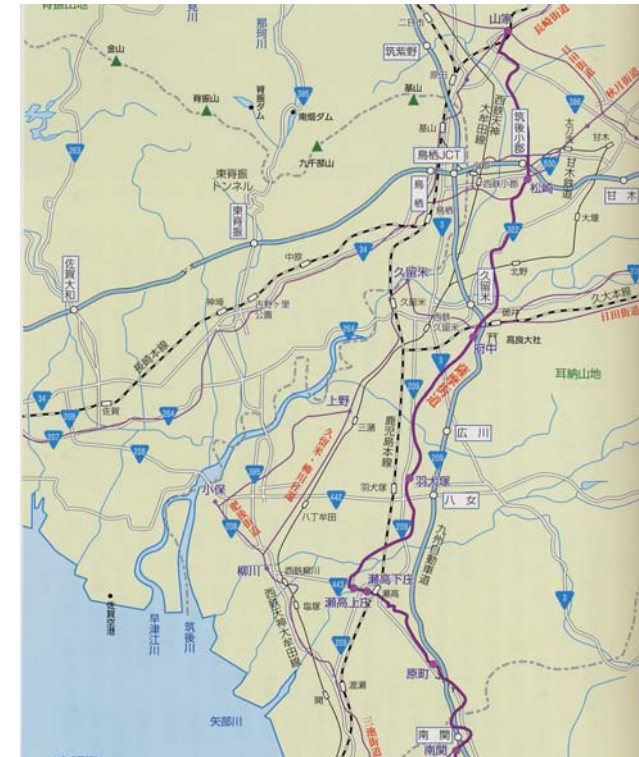
#### ③近世の街道の発達

江戸時代中期以降には、薩摩街道、久留米柳川往還等の街道の整備が進み、人や物資の移動が盛んになり、羽犬塚や瀬高など宿場町が栄えます。また、矢部川の水利・水運や山間地の木材などの豊富な資源を背景に、八女福島のお壇など様々な伝統産業が興ります。一方、有明海沿岸では慶長本土居などの干拓事業が盛んに進められました。



洗玉橋（八女市上陽町）

#### ■薩摩街道・その他の街道と宿場町



出典：街道と宿場町（海鳥社）

## 2) 文化と伝統産業

矢部川流域には多くの神社、仏閣が設けられ、特に天満宮が各地で祀られています。そこでは各地域特有の風流、神幸祭などの祭りや祝い事、奉納が行われ、季節の景観や祭事の景観として継承され、現代の日常生活や営みにも影響を及ぼしてきました。

### ①歴史ある祭事

各地で行われる祭りの多くは、五穀豊穡、無病息災、水難・海難からの無事を祈るものが多く、「風流・はんや舞（星野村）」、「水田天満宮稚児風流（筑後市）」、「ドンキャンキャン・廣田八幡神社神幸行事（みやま市）」、「中島祇園祭（柳川市）」などが古くから地域の祭りとして継承されてきました。

### ②地域振興のイベント

最近では、矢部川河川敷の各地で行われる花火大会や八女市上陽町星野川での「万灯ながし」等の地域振興を目的としたイベントも盛んに行われています。

### ③環境資源や水運を活用した伝統産業

また、矢部川の水利・水運や山間地の木材により、雛人形、仏壇、提灯、竹細工、手すき和紙、樟脳や蠟づくり、線香づくりなど様々な伝統工芸・産業が発達し、地場で産出する凝灰岩の「長野石」を加工する石灯籠づくりも盛んに行われてきました。

### ④文化人の育成と輩出

こうした様々な伝統・文化やその背景である豊かな自然と四季折々に繰り広げられる人々の営みのもとで、詩人である北原白秋や作家の檀一雄、五木寛之などを輩出するとともに、坂本繁二郎、青木繁などの画家たちがこの地を好んで多くの作品を描いています。

このように、矢部川流域では、固有の特色を持つ文化や伝統産業が育まれてきましたが、それらを次世代に継承し、地域振興に活かしていくことが今後の課題でもあります。



風流・はんや舞（星野村）



燭の蠟づくり（みやま市瀬高町）



今も現役の水車でされている線香づくり  
（八女市上陽町）



## 2.2 水のネットワーク

矢部川上流域・中上流域では、永年の歴史の中で廻水路による水利システムが確立し、その水利慣行は現在でも引き継がれ、独特な景観を創り出しています。下流域では、有明海の干満による干潟が生成され、人の手による掘削が加えられて、クリーク・掘割に代表される独特な利水・治水システムが創り出されました。クリーク・掘割は、雨水および矢部川河水の貯留による生活農業用水等への利用、水運などの多様な機能を担っており、地域の景観の形成や維持に欠かせない役割を果たしてきました。

その一方で、近代化によるライフスタイルや経済・社会状況の変化により、井堰、廻水路、クリーク・掘割がこれまで担ってきた機能が失われつつあり、その存続が危ぶまれています。永年培われてきた水利システムの消失は、地域の営みや景観の変化にも影響を及ぼすだけでなく、流域全体の水環境、生態系、水循環、利水・治水にも関わる課題として考えていかなければなりません。

### 1) 廻水路

古くから矢部川は、筑後平野南部の灌漑用水の大半を担ってきました。江戸時代に矢部川が、立花藩（柳川藩）と有馬藩（久留米藩）の境界となつてから、廻水路という他の河川には例を見ない水利施設が矢部川沿いの左岸・右岸に築造され、立花藩と有馬藩の間で農業用水の争奪が繰り返されました。その一方で、流れ分け、木杭堰・木樋設置など、相互に用水を融通しあう互譲の水利慣行も行われ、廻水路は地域が協調の風土を育ててきたことを示す象徴的な景観資源でもあります。現在では、廻水路は花宗用水組合と柳川市みやま土木組合の2つの水利組合により管理・保全されています。

### 2) クリーク・掘割

クリークは有明海の潮汐作用による干潟の成長と人為による掘削により形成されたもので、この地特有の景観を創り出しています。その起源は、

弥生時代の頃と推測され、その後、条里制の時代を経て、中世荘園時代には「墾田私有令」によって有力豪族による開墾が進められ、クリークの密度が高い環濠集落が形成されました。江戸時代には、沖合に向けた干拓事業が進められ、いくつものクリークが並行に整然と流れる景観が創り出されてきました。

また、柳川城下には、網の目状に掘割が張り巡らされ、軍事的な防御機能を有するだけでなく、人々の飲料水や生活用水にも用いられてきました。掘割には樋管、堰たい、流れ通し等の装置が設けられ、水の流れを管理しています。今では、掘割の一部で舟下りが行われ、観光資源ともなり、水郷地域ならではの景観を形成しています。



崖づたいに流れる三ヶ名廻水路（黒木町）

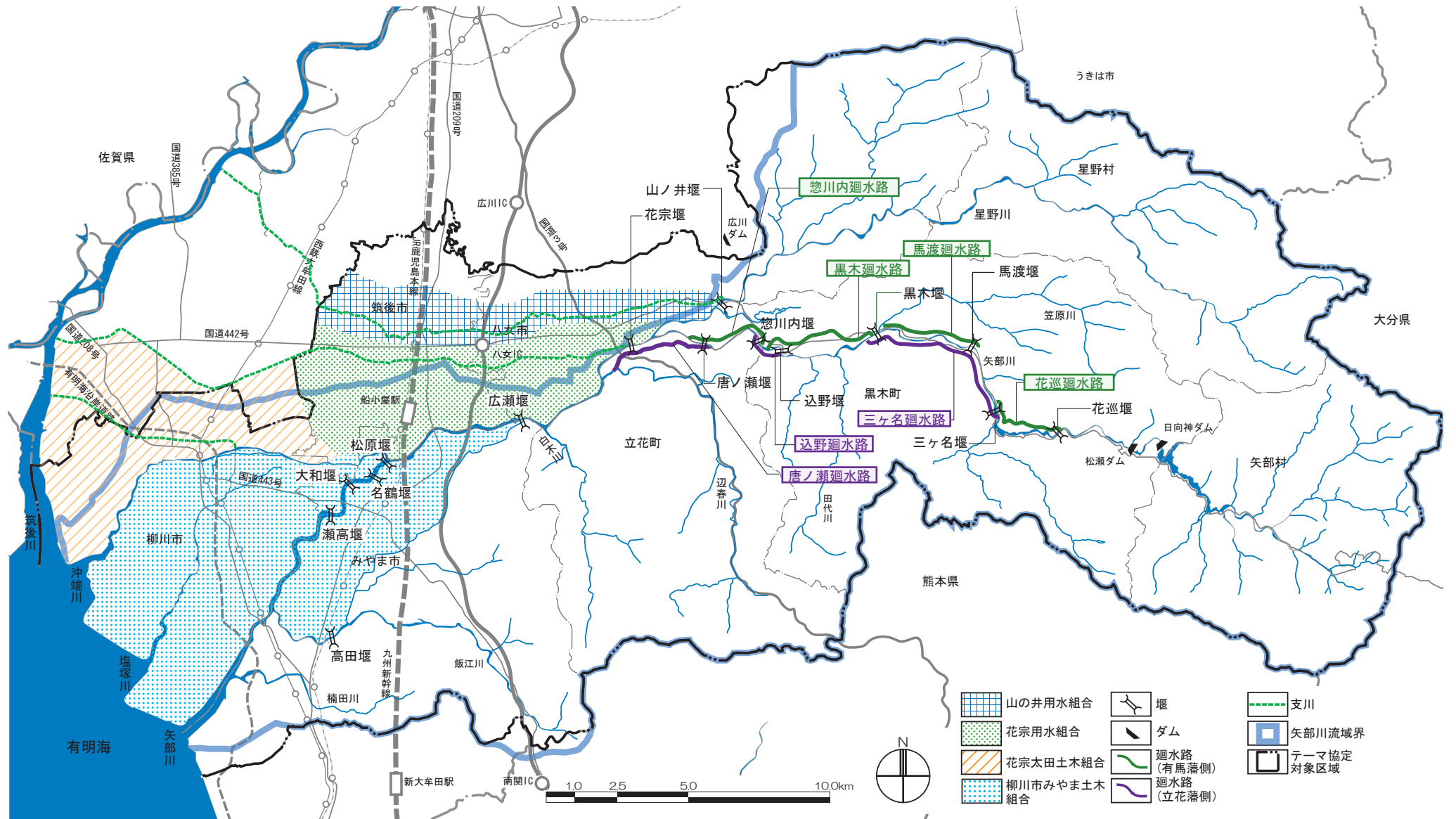


昭和48年頃のクリーク（柳川市）

### 柳川の掘割の水の制御



# 矢部川の迴水路と井堰



## 2.3 多様な生態系

矢部川流域では、瀬、淵、よどみ等の地形やそこに生息する動植物、周辺の自然環境とがあいまって、地域固有の多様な生態系を育んできました。特に河川、廻水路、クリーク等が形成する水のネットワークと、その水辺の湿性植物の群落や樹林とが一体の環境を創り出すことにより、豊かで多様な動植物が生息する生態系を形成しています。

こうした生態系と景観とは密接な関係にあり、景観の保全・整備は生態系の保全にも配慮して慎重に進めていく必要があります。

### 1) 動植物の生息域

矢部川上流域は県立自然公園に指定され、中上流域から中下流域の松原堰までの河川沿いの区域は、県立自然公園に含まれています。また、流域の山間部には5つの鳥獣保護区が指定されています。有明海には海岸線から約3kmの範囲で干潟が形成され、都市的な土地利用が進行している区域が少ないことから、動植物の生息環境として比較的良好な環境が形成され、人工的に築造された地盤の上に独特の景観を形成しています。

### 2) 河川区域内の多様な生態系

河口から瀬高堰まで感潮区域となっており、また潮の干満の差が激しいことから、有明海特有の生態系が河川の中でも見ることができます。また瀬高堰より上流では、河道が蛇行し、瀬や淵が比較的多いため、多様な生物が生息し、独特の生態系が潜む環境であると同時に、独特の自然景観を創り出しています。



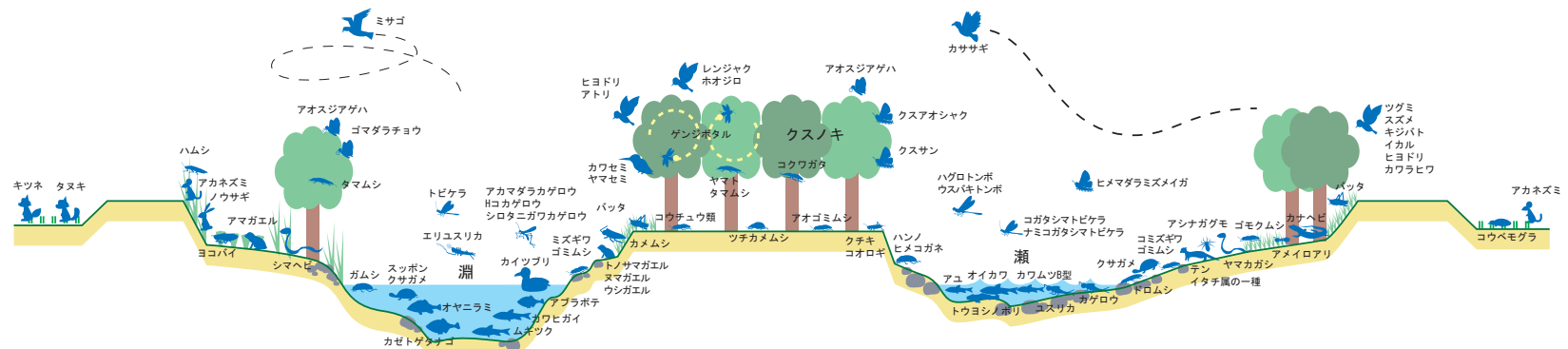
中の島公園（みやま市瀬高町）



多様な動植物が生息する釈迦岳・御前岳一帯（矢部村）

#### 中之島公園周辺の生態系

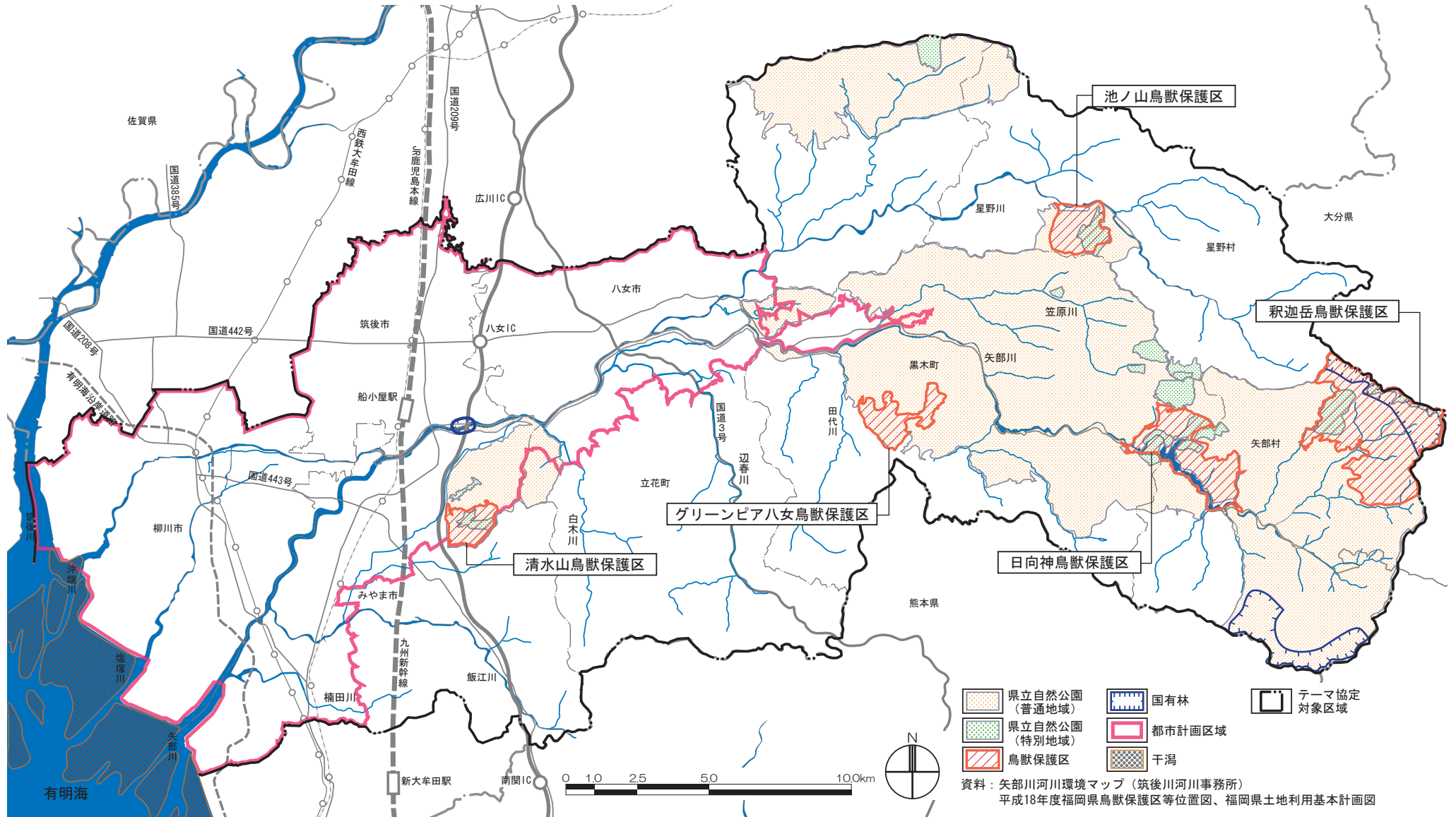
クスノキを主体とする河畔林や、モウソウチク、マダケ等の竹林が見られ、河道は蛇行しており、瀬・淵が見られます。なお、水際にはツルヨシ群落等が見られます。



出典：矢部川河川環境マップ（平成17年3月 国土交通省九州地方整備局筑後川河川事務所）



# 多様な生物の生息域



資料：矢部川河川環境マップ（筑後川河川事務所）  
平成18年度福岡県鳥獣保護区等位置図、福岡県土地利用基本計画図

## 2.4 大きく変化する地形

山間部の自然地から田園地帯を経て、干拓地へと流れる矢部川は、河川沿いを移動していくと、周辺地形や土地利用の変化に応じて、様々に変化する景観が展開していきます。上流域は幾重もの山々が迫る山岳地帯となっており、中上流域では盆地に農山村集落やまちなみが形成され、その周囲を山並みが囲う景観が広がっており、中下流域では、遠くに筑肥山地の山並みを望みながら、水平的な広がりとお興行きを持つ開放感あふれる田園景観が広がっています。中下流域の西には、網の目状のクリーク・掘割と田園、まちなみが広がる水郷地帯が広がっており、下流域には広大な干拓地が堤防を挟んで有明海の干潟とともに個性的な景観を見せてくれます。このように矢部川流域の地形の特性により大きくは5つのゾーンに分けられ、それぞれに特徴的な景観が展開しています。

### 【上流域】山々が迫り険しい溪谷がつづく景観



矢部川沿いの黒木盆地より上流域や、星野川沿いの八女市上陽町北川内地区より上流域では、山間を縫うように河川が流れ、川岸まで山が迫り、眺望や視界は狭められます。

近景・中景に自然景観が広がり、その荒々しい光景が特徴を見せています。

### 【中上流域】山並みに囲まれまちなみや田畑が河川に沿ってつながる景観



周囲の山並みが、1～2kmの距離を挟んで取り囲む山間地の景観が続きます。下流に下って行く、星野川では山ノ井堰の付近で、矢部川では花宗堰の手前で、上流から続く山並みが途切れ一瞬視界が開け、景観がダイナミックに変化します。

### 【中下流域】遠方に山並みが見える広大な田園景観



花宗堰から中島漁港付近までは、楠林や孟宗竹林等の樹林帯が所々あるものの、ほとんどが広大で平坦な田園の広がる景観です。上流とは異なり、広々とした空間を背景として、河川が蛇行し、河川沿いに移動していくと、蛇行する河川の向きに合わせて視線の向きも変化していきます。

遠方には、飛形山、清水山、御牧山などの筑肥山地の山並みを望むことができます。

### 【水郷】掘割・クリークと田園が広がる景観



筑後市西部から柳川中心部にかけて、クリークが縦横に走る田園水郷地帯が広がる景観が展開します。中下流と同様、広々とした田園景観が広がり、山並みはより一層遠くに望むこととなります。

### 【下流域】干拓地の360度広がりのある景観と河川沿いの漁港の景観



中島漁港や沖端漁港より南西部には、広大な干拓地が広がっており、雄大な田園景観を望むことができます。海岸線では堤防により有明海と干拓地が隔てられており、堤防越しには潮の満ち引きによる有明海特有の変化する景観を望むことができます。古代の条里制の跡や、江戸時代以降に行われた干拓事業による潮受け堤防の遺構も、この地域独特の景観を醸し出しています。



## ゾーンごとの景観特性

